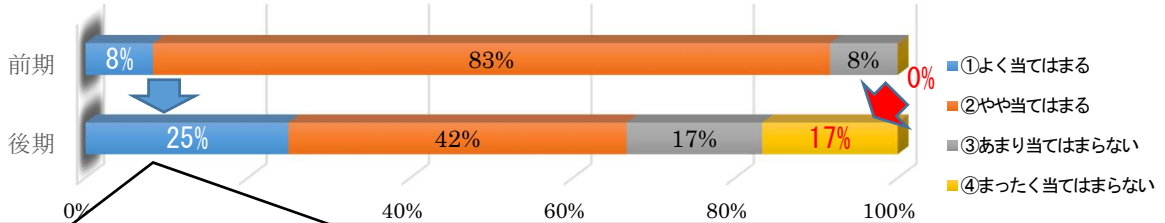


② 教職員の学校評価アンケートより (2学期の取組)

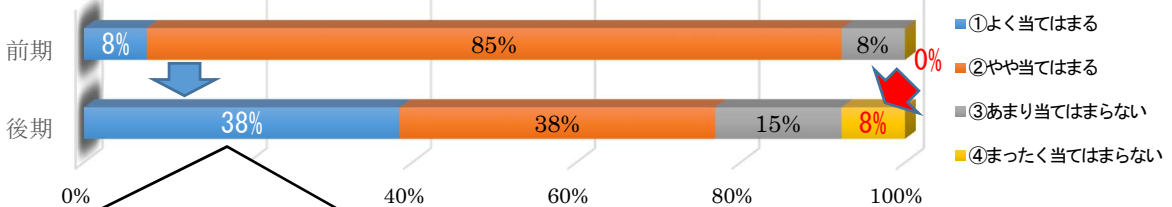
【子どもの主体性を育む取組】

1 指導と評価の一体化を図った朱書きを入れ、意欲を引き出している



○「よく当てはまる」が17ポイント増
 △「まったく当てはまらない」が17ポイント増

2 子どものやる気を引き出し、自ら考え学ぼうとする授業づくりに取り組んでいる



○「よく当てはまる」が30ポイント増
 △「まったく当てはまらない」が8ポイント増

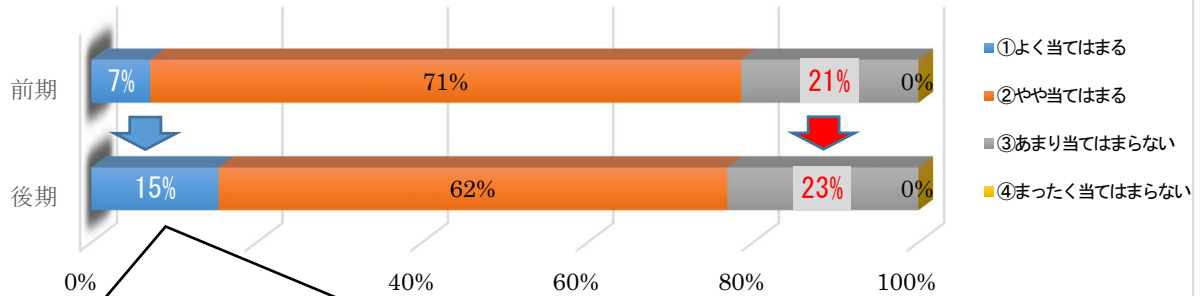
本年度より、ポートフォリオを活用して行事ごとの児童の振り返りを記録として残している。さらに、その振り返りに担任が朱書きを入れて保護者へ渡し、学校の様子を短いスパンで知らせる取組を進めている。児童を支え認める朱書きを継続的に行う取組が、成果となって現れ始めたことが、項目1の「よく当てはまる」の評価につながったと考えられる。また、授業研究を通じた教師力の向上、プロジェクトマトリクスを活用した授業実践を積み重ねることが、項目2の「よく当てはまる」の評価も高くなっていると考えられる。



一方で、「まったく当てはまらない」が増えていることは、支援の仕方の不十分さ、授業力のたりなさを教師が感じている現れである。また、どのような児童の姿が見られたら「意欲を引き出す」「やる気を引き出す」ことができたか、その捉えが担任によって違うことも、評価の差に表れていると考えられる。授業づくりに関する研修、自己研鑽を進め、教師の力量の向上を図ると共に、それぞれの行事、また授業でのめざす子どもの姿を確認し、教師の感覚ではなく、客観的な評価による分析ができるよう進めていきたい。

【自他肯定感を高める集団づくり】

4 自己肯定感、自己有用感を高める工夫をしている



○「よく当てはまる」が8ポイント増

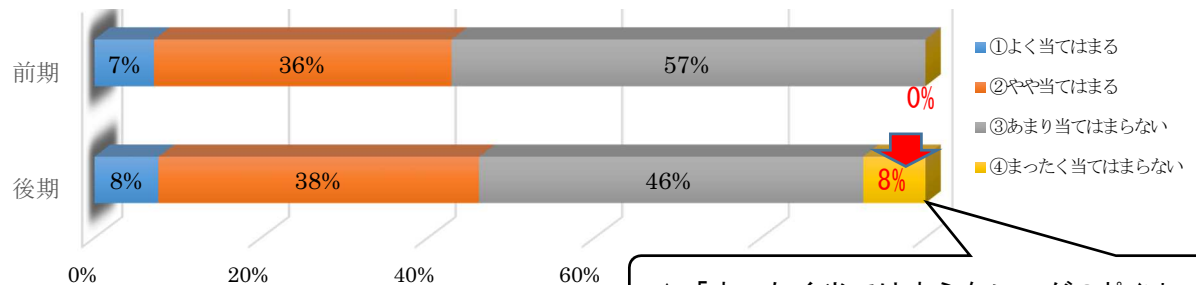
△「あまり当てはまらない」「まったく当てはまらない」のポイントはほぼ横ばい

自他肯定感を高める集団づくりへの取組として、QUテスト（学校生活における児童生徒の意欲や満足感、および学級集団の状態を質問紙によって測定する検査）を1学期末に実施し、客観的に自分の学級を分析する機会を設けた。また、その結果を学級経営にどのように生かすかをテーマに、市スクールカウンセラーの山口力氏を講師として招聘し、学級の実態をどう捉え、何をしていくべきかについて現職教育を行った。それをもとに各担任が一人一人の児童を捉え直し、「やる気のある学級」「居心地の良い学級」になるよう取り組んできた成果が、「よく当てはまる」の評価が増えてきたことにつながったと考えられる。



さらに100%をめざすため、工夫があまりできていない教員に対し、相互の情報交換による指導方法や支援の仕方の共有を図っていきたい。

7 目標をもって業前マラソンに取り組めるような声かけや工夫ができている



△「まったく当てはまらない」が8ポイント

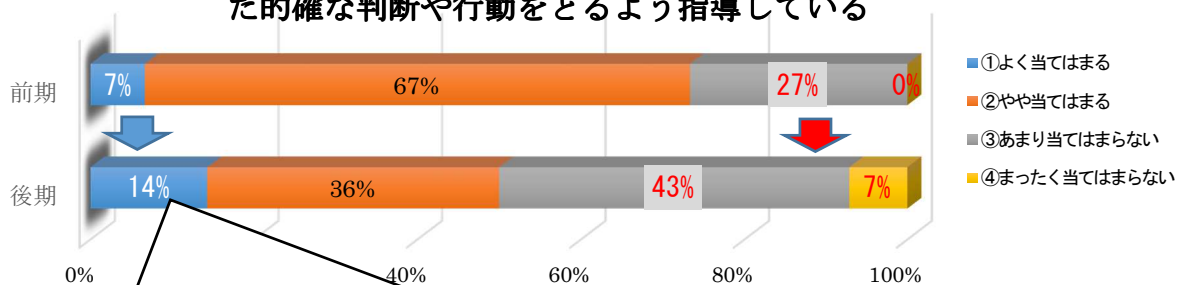
46年目を迎えた業前マラソン。「走る」ことは続けられているが、その時々によって取り組み方は変わってきている。本年度、児童の健康面での配慮から、外周を走る期間を月末の1週間のみとし、残りの期間は運動場を走る取組を始めた。外周を走ることは違い、トラックを走り周回を重ねるマラソンは、よりはっきりとした目標をもって取り組む必要がある。マラソンカードへの記入、目標周回の

設定など、さまざまな方法を模索している結果が表れた評価となっている。運動会の1000m走や駅伝大会など、多の行事との関連も視野に、年間を通した取組を考えていく。さらに、伝統を大切にしつつ、「心身共に健やかで、自他肯定感を高くもつ」児童の育成をめざした業前マラソンの在り方を考えていきたい。



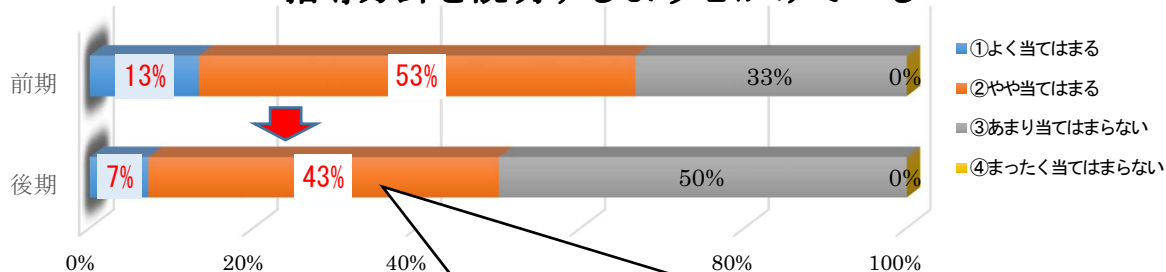
【一南小の教育を支える環境整備】

10 危機管理マニュアルをもとに、様々な災害に対し、状況に応じた的確な判断や行動をとるよう指導している



○「よく当てはまる」が7ポイント増
 △「やや当てはまる」のポイント減 「まったく当てはまらない」が7ポイント増

12 学校・学年だよりやブログを通して、指導方針を説明するよう心がけている



△「よく当てはまる」「やや当てはまる」のポイント減

市の学校安全総合支援事業を受け、年間を通して防災に関する学習を進めてきた。主に5年生が総合的な学習の時間を使って、防災、減災について学習したり、一色中学校と連携した防災グッズ作りや避難所運営ゲームを行ったりしてきた。また、その学習の成果を全校集会で発表したり、地域の自主防災が主催する避難訓練に参加をしたりしながら、他学年や地域に広げる活動を進めてきた。それらの取組が、教員の危機管理に対する意識を高めてきた一方で、一部の教員や児童の取組に留まってしまっている現状がある。海拔0.1mの本校であるからこそ、各種避難訓練と防災学習とをつなげ、日頃から安全・安心に関する意識を高めていく必要がある。



信頼される学校づくりについては、まだまだ取り組めていない結果となっている。情報発信はもちろん、地域とともに子どもを育てる学校となるよう、取組の見直しを行っていきたい。